

平成 27 年度

事業所名 : グループホーム さくら

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370400426		
法人名	社会福祉法人憲幸会		
事業所名	グループホームさくら		
所在地	〒023-0003 岩手県奥州市水沢区佐倉河字十日市85		
自己評価作成日	平成 27年 12月 12日	評価結果市町村受理日	平成28年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0370400426-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 27年 12月 22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四月より管理者が変わり新しい体制で、ほとんどの職員が明るく元気に利用者に接しています。利用者さんが少しでも多くの楽しみを持って頂けるよう食生活などにも気を配っています。資格取得を目指す職員については、応援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営主体が新法人に変わり2年目を迎え、事業所名や職員体制も変わっている中、ミーティングでの情報共有をしっかりと丁寧に行い利用者が安心して暮らせる寛ぎの場の提供に努めている。「ひとり一人に寄り添い共に楽しく笑顔になれる生活」を新たな事業所理念として掲げ、利用者個々がのんびり自由に落ち着いて過ごせるよう一人ひとりの生活ペースを大切に、地域に開かれたグループホームを目指し日々のケアに取り組んでいる。平地農村地帯の民家が点在する立地にあって運営推進委員の力添えで災害対策訓練に近隣住民の参加協力が得られるようになり安心感につながってきている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の話し合い、毎月の合同会議、運営推進会議で確認し合っている。	新法人の下での運営変更に伴い、事業所が目指すサービスのあり方を示す新たな理念をつくり、統一した方向性をもって日々の具体的なケアサービスの実践に努めている。	新たに作りあげた理念について全職員が理解を深め合い意識づけを図る工夫と日々のサービス提供場面において理念がケアに反映されているかどうか振り返り実践につなげていく取り組みに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議、憲幸会祭り開催、佐倉河祭り参加などで交流している。	地域の方々との交流を持つことを大切に考え町内会に加入するほか、同一敷地内の事業所と合同開催の夏祭りに家族やたくさんの近隣の方々の参加による交流や、地区の文化祭行事にも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当会の在宅支援センター職員が、各行事や運営推進会議に協力し民生委員の参加を得ていて、認知症を理解出来る機会となっている。保育園児を対象に遊びを通じて触れ合いの機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2～3か月に運営推進会議を行い、第三者委員や民生委員、包括支援センター職員の参加により、実践状況を見て頂き、ご意見を頂いている。	地域包括センター、区長、、民生委員、地域住民、利用者家族の参加を得て、事業所の状況や行事などを報告しており、地域との協力体制構築に向けた防災訓練についての意見などが出されている。また、委員と利用者が昔の遊びを通して交流する機会を設け利用者理解につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	①当会の在宅支援センター活動を通して市町村との情報交換。②運営推進会議に包括支援センター職員の参加。③介護保険認定時の市町村の職員の訪問調査。など。	事業所の現状や更新申請の手続きなど相談や助言をもらいながら情報を共有している。電話での問い合わせや相談にも実直に対応してもらっており話しやすい関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修でも身体拘束については行っている。玄関の施錠は日中はしていない。	内部の研修を通して身体拘束禁止の対象となる具体的な行為について学び、不適切な言葉や対応方法についてもミーティングで確認し合いながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	①玄関の鍵は日中はかけない。②必要以上の薬は飲ませない。③職員は気付かず失礼な言葉を使っているかもしれない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在までご家族からの相談は無いものの、権利擁護事業を始めたいご家族には、実行支援はしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書で説明し、さらに重要事項説明書で理解を深めて頂いている。入居時調査票への記入もご家族にお願いし、思いの共有化を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書で説明している他に、運営推進会議、各行事など様々な場面で、意見要望を聞く機会を設けている。	利用者との日々の関わりの中で、また家族の来訪時には声を掛け、話しやすい雰囲気づくりに努めているほか、遠方の家族には電話で情報を伝えながら意見等を得られる取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティング、毎月の会議などで多くの意見や提案を聞く機会を設けている。又、事務所はオープンな環境でいつでも施設長に相談できる。	ミーティングや全体会議などで職員の意見や提案を聞き、勤務体制や業務の進め方など職員の意見、気づきを把握し、検討して運営に反映させるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就学、公的資格取得、介護認定審査会への協力など、法人として支援を惜しまない環境がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な演題発表参加は、長期の計画に基づき、理事長、管理者、リーダーを交えての検討を重ねた結果の成果である。演題発表は総合的な研修の場として、当会で最も重要な位置を占めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	家族介護者教室、夏祭りなどには必ず情報を発信し、同業者の参加を呼びかけ交流の機会作りを積極的に行っている。また、グループホーム協会に加盟し、情報を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最近では病院退院と同時開始の方や、同法人で運営している他事業所からの転居もあり、ご自宅訪問は無くなった。複数の情報を得て、ご本人との接触の機会を多くすることで、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	当会の通所介護利用からの移行入所が多いので、初期の信頼関係は構築されている実感がある。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅支援事業所の職員や包括のケアマネ、同法人のケアマネより情報を得てケアに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常時実施は出来ないが、茶碗洗いや掃除等日常生活を共に過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が遠方にいらっしゃる方が多く、なかなか会える機会が少ない。交流は難しい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院などから入居される方が多く、その方の馴染みのものの把握が出来ない事が多い。	馴染みのスーパーに買い物に行ったり、自宅近くにドライブに出かける「ふるさと訪問」を実施している。また、友人、兄弟、親戚の方々に気軽に来ていただけるよう面会の際は居室に案内している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	陰湿な感情の表出も重要な精神活動であることを職員が理解し、それぞれの職員が傷つかないようにフォローしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中はお見舞いに伺ったり、退去されても電話頂いた場合は相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始に際し、ご本人に必ず会い、お話を直接伺い、さらにご家族に入居時調査表を記入して頂き、様々な角度から実態」を把握している。主介護者がどなたかによっても、思いが変わり支援に苦慮する時がある。	生活歴や家族の話をもとに利用者の全体像を把握し、日々のくらしのなかでの会話や行動から一人ひとりの思いや意向を推し図るように努めている。ADLの低下と共に思いを言葉にできない利用者の意向の把握に戸惑うことも多々あり気づき話し合いを大切にしたいとしている。	日々思いの把握に遡巡することがあるとしており、表情・反応・行動から気づきを大切に、個性、価値観など利用者理解の検討を丁寧に行い思いや意向の把握に努め、その人らしい暮らしの支援につなげる取り組みに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始に際し、ご本人に必ず会い、お話を直接伺い、さらにご家族に入居時調査表を記入して頂き、様々な角度から実態」を把握している。全ての当会サービスはその方の過去歴の共有から始まる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	部署会議、又は毎日のミーティング等でそれぞれの方の心身の状況を報告し、職員から対処の方法について意見を出し合い把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス、モニタリングは定期的にも手く出来ていない。今後は、職員間で力を入れていきたい。	毎月の会議で職員間で意見交換し、本人、家族の意向や医療面を総合して介護計画を作成している。管理者・計画作成担当者がこの春に交代しており、職員が互いに連携しながら現状を捉え計画見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の行動、言動など支援記録、日誌に記録し、その方のカンファレンス、モニタリングに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日のミーティング、毎月の部署会議で話し合い、常に一人ひとりにあった柔軟なサービスの提供に取り組んでいるつもりではいるが、常にとはいえない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者重度化により、上手く出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居に際し、かかりつけ医を変えてもらった事は無い。受診時には、より適切な診療を受けられるよう支援している。	入居前からのかかりつけ医を継続し、家族の同行受診としているが家族の依頼により職員が受診同行することもあり、結果は受診記録や電話で報告して連携を密にしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に、当会の看護師が関わっている。折々に気付いた事を、医療機関受診時に反映している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は頻回に病院へ足を運び、情報収集などに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	介護度4や介護度5の方もいらっしゃいます。取り組んでいます。	介護度の高い利用者や長期利用者も多く家族から終末期対応の不安や看取りの要望も出てきている。この春予期せぬ緊急看取りを経験しており、職員研修を重ね家族の協力を得て意識の共有を図りながら重度化・終末期の体制を整えたいとしている。	利用者や家族のニーズをくみ取りながら事業所が対応できる支援について職員間で話し合い、体制を整備し、利用者、家族の安心と納得が得られるよう取り組まれている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	体温計、血圧計、パルスオキシメーター等を常備し、急変時のデータ採取、その後の連絡手順トレーニングをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に、避難訓練を行っている。地区の区長さんにも協力のお話はしている。	年2回同一敷地内の事業所と合同で火災想定避難訓練を行っている。防火安全対策研修で職員の心構えと連絡体制を確認し、強震時や夜間の災害想定訓練も計画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	配慮しているつもりではあるが、誇りやプライバシーを傷つけていることがあるかも知れない。	利用者の尊厳を守ることを基本に、誇りやプライバシーを損ねない言葉や対応に取り組んでいる。また、廊下の突き当り(正面)にトイレがあり、リビングから見通せるためトイレ誘導の際は特に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一日の生活の流れの中で、本人の意思を確認しながらサービスの提供をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望に添える様、毎日のミーティングなどで、職員同士の情報交換を密にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居が長期化し、馴染みの理髪店へのお出掛けもままならないが、契約している理髪店の方に、定期的に来苑していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	キッチンに立つこともままならない方が多いが、煮炊きの音や、匂いからも食事を楽しめるようにしている。また、職員は、必ず一緒に食卓を囲むことにして、家庭的な雰囲気を大事にしている。	刻み食・おかゆなどの形態や持病による食事制限等多様であるが、嗜好も含め配慮しながら調理しており、片付けなど利用者とともにやっている。また、2カ月に1回程度外食の機会を設け楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜中心の献立、塩分控えめな調理を心掛けている。水分摂取については、チェック表にて管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きやうがいを励行している。必要な方には、歯科通院支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護度が進んでいる方は、オムツを使用しているが、歩行できる方は、様子観察し、トイレ誘導を心掛けている。	立ち上がりが難しい方には無理にトイレ誘導はしていないが、リハビリパンツ利用の方は、排泄チェック表を参考に仕草にも留意しながら声がけして、トイレで排泄できるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を十分摂り、野菜やヨーグルトなど食事面に注意している。また、排便状況を観察し、下剤の量を調節している。排泄チェック表にて管理を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間的に毎日とはいかないが、その日の利用者の気分にて入浴したりしている。	一人週2~3回入浴できるよう支援している。入浴を嫌がるときには無理強いせず翌日あらためて声がけし、本人の意思を大切にしながら気持ちよく入浴できるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居時調査票によって、入眠の状況や午眠の状況を把握し、入居されてからは、その方のペースに沿って休める様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の指導の下、お薬情報を保管し、薬の情報は職員間で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前調査表によって、生活歴の把握に努めている。買い物、散歩、各行事などで頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出掛けたり、買い物のお手伝いをお願いしたりしている。時には、ドライブなどで紅葉狩りやおいしいアイス工房に出掛けたりしている。	日常的にはベランダでの日光浴や近隣を散歩しながら気分転換を図っている。利用者の方から行きたいところなどの意思表示があまりないが、買い物や外食、季節を感じられる場所へのドライブなどの機会をつくり出かけるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	実際にはお金を使える方は居ない。必要な方だけ持っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	書くことが好きな方の、はがきを出したりと支援している。職員が遠方のご家族に用事で電話をするときは、直接利用者とお話し、喜んでいただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設より大きな桜の木や紅葉の木が見れる。声掛けをし、季節感を味わって頂けるような会話に努めている。	リビングには、行事写真や絵が掲示され、ほどよい距離に椅子、テーブル、テレビ、クリスマスツリーが配置されている。廊下には、利用者家族が撮影した写真、絵が飾られ落ち着いた雰囲気が感じられるよう工夫している。また、天気の良い日にはウッドデッキでくつろげるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、所々一人になれるスペースがあり利用者は自由に使っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族にはよく説明し、写真や使い慣れた家具など、居心地の良い空間づくりをお願いしているが、なかなか思うように取り組めてはいない。	車いすでも十分な広さの居室には、整理タンス、ラジオ、時計、位牌、家族写真、使い慣れた布団などが持ち込まれ居心地の良い部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	色により、トイレが分かるなど工夫している。台所は、広くリビングから目の届く空間となっている。		